

# 「県民オペラ」を楽しみに待つ子どもたちへ



演出家・十川 稔先生のお話

子どものために書かれた作品。  
オペラデビューにもびったりです。

「ヘンゼルとグレーテル」は、もともと子どもの楽しみのためにお母さんが書いた作品です。ドイツの作家、グリム兄弟がドイツで語り継がれてきた昔話をまとめた童話集「グリム童話」の中の1つです。

オペラにはいろいろな作品がありますが、子どものために書かれたのはこれだけといってもよく、子どもが初めて

オペラを観るのにもびったりです。魔女とヘンゼルたちの戦いや、魔女を押し込んだかまどが爆発するところなど、見どころもいっぱいです。

歌にも出てきますが、神への感謝を表している「ヘンゼルとグレーテル」は、ヨーロッパでも日本でもクリスマスに上演されることが多く、ヨーロッパではその時期に、大人も子どももタキシードやドレスなどを着て観に行くのが習慣になっています。また、オペラ観賞は子どもたちにとって、さまざまな社会勉強をする機会にもなっています。

ぜひみなさんも、家族みんなで楽しい時間を過ごしてみてください。

## 【Profile】

大阪大学文学部国文学科に学ぶ。1975年早稲田小劇場（現SCOT）入団。鈴木忠志氏演出の舞台に出演。20年近くの在団中に、ロサンゼルス・オリンピック芸術祭をはじめ、20カ国70都市におよぶ海外公演に参加。海外の演出家、俳優との共同作業も数多く、世界各国の俳優に鈴木忠志氏の舞台演技法を教える。1994年SCOTを退団、オペラの演出に携わり、数々の作品を演出。また新国立劇場、二期会、日本オペラ協会等で栗山昌良氏の演出助手を務めるとともに、新国立劇場オペラ研修所、二期会オペラスタジオ等で演技を指導。



指揮者・江上 孝則先生のお話

魔法のような魅力にあふれた音楽で、  
観て聴いて楽しい作品です。

「ヘンゼルとグレーテル」の音楽は作曲家エンゲルベルト・フンパーディンクによるもので、さまざまなメロディーを生かした美しい音色が魅力です。彼はドイツの作曲家ワーグナーの影響を受けていて、「ヘンゼルとグレーテル」の音楽もワーグナーを思い起こさせます。その歌もオーケストラの演奏もとてもレベルが高く、聴き応えも十分です。

この話はヘンゼルとグレーテルが魔女によって魔法をかけられるところが一番の見どころで、その音楽も魔法のような魅力にあふれています。魔女の怖さや迫力が上手に表現されているのはもちろん、物語のハラハラドキドキも楽器の細かい音で表されていてスリルがあり、観て聴いて楽しい作品です。

以前住んでいたウィーンでは、オペラ劇場にたくさんの子どもたちが「ヘンゼルとグレーテル」を観に来ていて、魔女が出てくると大きな歓声が上がるなど、とても楽しんでいました。クラシック音楽は決して難しいものではありません。ぜひこの機会に多くの子どもたちにも楽しんでもらいたいと思います。

## 【Profile】

東京芸術大学音楽学部指揮科卒業、同大学院修了。1991年より文化庁在外研修員として、ミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場にてリカルド・ムーティ、カルロ・マリア・ジュリーニのもとで研鑽を積む。新日本フィルハーモニー交響楽団・オペラシリーズ等で小澤征爾氏のアシスタントを務めた。1995年には「終戦50年平和祈願ミサ」（バチカン・聖ピエトロ寺院）においてモーツァルトのレクイエムを指揮。この様子は、イタリア全土に生中継された。これまでに新日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、二期会合唱団を指揮。現在、(財)日本オペラ振興会オペラ歌手育成部講師。

## 今回上演する「ヘンゼルとグレーテル」のお話をちょっとだけ教えましょう。

舞台は、ドイツ。元気な兄妹「ヘンゼル」と「グレーテル」がお母さんの留守中にお手伝いを放りだして遊んでいます。そこに帰ってきたお母さんは、二人をしかり、森にイチゴ摘みにでかけるよう言いつけます。

でも、その森には、恐ろしい魔女が住むという噂がありました。道に迷ったヘンゼルとグレーテルは、魔女に捕まってしまいます。さて、この後二人は……あとは公演を観てのお楽しみ。



## 県民オペラ 「ヘンゼルとグレーテル」

### チケット販売中!

【問い合わせ先】  
企画部 生涯学習文化課  
☎055-223-1797

- 上演日時 12月8日(土)午後6時開演  
12月9日(日)午後2時開演
- 上演会場 県民文化ホール 大ホール
- チケット料金 S席:3,800円/A席:3,300円/  
学生席:1,500円(全席指定)
- チケット取り扱い場所 県民文化ホールほか



# 県民オペラ 「ヘンゼルとグレーテル」上演!!



第1回 県民オペラ「フィガロの結婚」より

県民オペラは、平成4年に県民文化ホールの開館10周年を記念して始まりました。その後、5年ごとに開催され、20周年からは、「やまなし県民文化祭」の総合舞台上で上演されることとなりました。25周年目を迎えた今年は12月8日・9日の2日間、グリム童話から世界中で愛され続けるメルヘン・オペラ「ヘンゼルとグレーテル」を上演します。

## 「オペラ」について 勉強してみよう!!

オペラは、16世紀末から17世紀はじめにかけてイタリアで誕生したといわれている音楽劇です。オペラは、セリフのほとんどを歌で表現します。オペラ歌手は、マイクを通さず自分の肉声を会場に響かせるのでとても迫力があり、観客は楽しい場面ではワクワクし、



曲に合わせての歌の練習も真剣

恐ろしい場面では身震いもします。また、悲しい場面になると、涙もでてきます。こうした感動を観客に与えるのは、オペラ歌手の歌や演技力の他に「音楽」があります。オペラでは、セリフだけでなく、音楽で表現する場面や登場人物の動きなどを音楽で表現していきます。

オペラを観賞するときには、物語の内容やセリフだけでなく、音楽を含め、舞台全体を目や耳で感じる大切です。今回上演される「ヘンゼルとグレーテル」は、グリム童話の名作です。この物語にドイツの作曲家エンゲルベルト・フンパーディンクが素晴らしい音楽をつけ、数多いオペラ作品の中でも最も親しまれる作品として、世界中で上演されています。美しい音楽に彩られたグリム童話の世界、子どもから大人まで、世界中で愛され続けるメルヘン・オペラの傑作です。



十川先生の熱心な指導を受ける出演者